

世界の中の日本経済

大和総研理事長
武藤敏郎

- * 緩やかな上昇過程
- * 見方が分かれる「2%達成」
- * 輸出はこれから増える
- * 期待が現実になるか
- * 賃金上昇のポイント
- * 銀行行動は変わるか
- * 懸案の消費税再引き上げ
- * 基礎的財政黒字に向けて
- * 気の抜けない国債状況
- * 将来像をどう考えるか



柴生田 それでは開会いたします。（拍手）
今日は2年ぶりに武藤さんをお迎えいたしました。昨年は微妙なこともございましたし、多忙でおられまして、なかなか時間がありませんでした。今年もかなり前広にお願いいたしました。今日この時間でやっとお迎えすることができました。決まった後にまたオリンピックの大役が飛んでまいりました。オリンピックにつきましても若干触れていただけるのではないかと思います。今日はじっくり武藤さんのお話を伺いたいと思います。よろしくお願いいたします。

（拍手）

武藤 ご紹介いただきました武藤でございます。ここでお話しさせていただくのも何度目かになりまして、顔なじみの方もたくさんおられ

ます。日本のアベノミクスにより雰囲気が多くなってきましたけれども、それが本物になっていくのかどうかという話から始めさせていただきます、わが国のやや長期的な話題にも触れたいと思います。

アベノミクスは昨年、財政出動、大胆な金融緩和、成長戦略ということで始まった結果、マーケットはたいへん好感をもって迎えたと思います。何よりも株高になりました。最近ちょっともたもたしてはおりますけれども、5割以上1年の間に株高になりました。個人金融資産が30兆〜40兆円増加していることだと思えます。

株が上がりますと、デパートの高額商品が売れるという話がありまして、消費全体を本当に